

適性検査A

解答と解説

問題一
初め
日
々
の
活
動
終わり
目
的
や
価
値

について

問題二 (例)		
ま	て	ど
っ	し	の
た	ま	よ
り	っ	う
す	た	な
る	り	考
こ	、	え
と	お	も
。	お	す
	ぜ	ば
50	い	ら
	の	し
	考	い
	え	、
	に	本
	流	当
	さ	だ
	れ	と
	て	考
し	え	

50

で	勇	を	大	分	て	
お	気	尊	切	の	、	「
た	を	重	だ	観	文	対
が	出	し	と	点	章	話
い	し	つ	述	に	A	「
納	て	つ	べ	立	で	を
得	自	も	ら	っ	は	す
の	分	き	れ	て	知	る
い	の	ち	て	考	識	う
く	立	ん	い	え	や	え
結	場	と	る	を	経	で
果	を	批	。	率	験	意
に	言	判	文	直	だ	識
至	業	す	章	に	け	す
れ	で	る	B	述	に	べ
る	伝	姿	で	べ	た	き
よ	え	勢	は	る	よ	こ
う	る	を	、	こ	ら	と
に	こ	も	相	と	ず	と
す	と	ち、	手	が	自	し

100

20

40

20

問題三

追	べ	よ	そ	げ	よ	ラ	こ	に		つ	意	い		る
い	、	う	ん	な	う	テ	と	責	な	け	見	く	私	こ
求	自	に	な	い	に	ス	に	任	ぜ	る	に	結	は	と
め	分	、	場	こ	、	が	つ	が	な	こ	賛	果	、	が
ら	に	責	面	と	ど	ク	な	生	ら	と	成	に	文	大
れ	と	任	で	が	ん	リ	が	じ	、	が	す	至	章	切
る	っ	を	も	重	な	ト	る	、	理	重	る	れ	B	だ
よ	て	持	相	要	に	ン	と	お	由	要	時	る	に	と
う	真	っ	手	に	少	の	思	た	を	だ	も	よ	あ	述
に	実	て	を	な	数	提	う	が	述	と	反	う	る	べ
つ	だ	自	尊	る	派	案	か	い	べ	思	対	に	よ	ら
と	と	分	重	場	で	を	ら	を	る	う	す	す	う	れ
め	思	の	し	面	も	受	だ	尊	こ	。	る	る	に	て
た	う	考	た	が	自	け	。	重	と		時	に	お	い
い	こ	え	対	あ	分	入	文	し	で		も	は	た	る
。	と	の	話	る	の	れ	章	て	自		必	、	が	。
	を	理	が	と	考	な	B	対	分		ず	だ	い	
	堂	由	で	思	え	か	で	話	の		理	れ	納	
	々	を	き	う	を	っ	ソ	す	意		由	か	得	
	と	述	る	。	曲	た	ク	る	見		を	の	の	

440

400

300

200

(配点)

{ 問題一 10点
 問題二 30点
 問題三 60点 } 計100点

ただし、問題一は完全解答

【解説】

問題一

B1 情報を獲得する 具体化 関係づけ

線部直後に「思考と真理への探究を含んだ会話のことを対話といいます」とあります。ただし、この部分には「対話とは何について議論するものか」という疑問への直接の答えは書かれていません。しばらく読み進めていきましょう。

第二段落に「対話は、知識や経験だけではできません」という説明があり、続く部分で「私たちは、日々の活動の持つ究極的な目的や価値について話し合う機会は、あまり多くはないのではないだろうか」と述べられています。さらに、同じ段落の後半に「こうした価値や目的についての問いは、知識やこれまでの経験だけでは答えられないのです」とあります。以上のことをまとめると、対話とは、「価値や目的についての問い」にこたえるものであることがわかります。これをもとに字数の条件を加味して探すと、「日々の活動の持つ究極的な目的や価値」が正解となります。

問題二

B2 具体化 関係づけ 置き換え

第一段落で述べられているように、筆者は相手の考えに影響されること自体を悪いことだとは考えていません。ただし、第二段落で「問題は影響のされ方です」と書かれており、続く部分でよくない影響のされ方について説明をしています。「どのようなことを避けるべき」かを答える問題ですから、この部分をまとめましょう。「また」という並列の接続語がありますから、この前後をどちらも入れて字数に合わせてまとめます。

※四十字未満の場合、採点対象としません。
※この問題では、次のポイントを中心に見ます。

内容等について（18点）

誤り1か所につき、6点の減点となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘をしています。

- ・「どんな考えもすばらしい、本当たと考えること」「おおぜいの考えに流されること」を並列の形で書かれているか
 - ・内容が過不足なく書かれているか
 - ・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか
 - ・同内容の不必要な反復がないか
- 形式等について（12点）

内容等が0点でない場合、次のような視点で採点します。1つ目の誤りは6点の減点となります。2つ目以降の誤りは1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をしています。

- ・誤字や脱字がないか
- ・文法的な誤りがないか
- ・語句や言葉の使い方に誤りがないか
- ・常体、敬体の混在がないか
- ・不適切な話し言葉の使用がないか
- ・消し残りなどで字が見づらくないか
- ・指定されたマス目の使い方ですべて書かれているか
- ・一マスに一文字が書かれているか

問題三

C2 理由 置き換え 推論

文章Aと文章Bに書かれたことをふまえながら、自分が「対話」をするうえで重要なこと、という課題についてあなたの考えを述べる問題です。

第一段落では、**文章 A**と**文章 B**それぞれに書かれた、「対話」において意識すべきことについてまとめます。

文章 Aの第三段落に「議論の優劣が知識の量できまつてしまふのではない」「そこで求められているのは、専門的な知識ではなく、自分の観点に立ちながらも、理にかなった議論をすることです」とあります。この部分を利用してまとめるとよいでしょう。

また、**文章 B**の第四段落には「相手を尊重しつつもきちんと批判する、その姿勢が肝心です」「最初は勇気がいっても、きちんと自分の立場を言葉で伝えることで、相手の意見とのちがいや共通性が見えてきます。その方が、良い人間関係をきずけますし、なによりおたがいに納得のいく結果に至れるのです」という内容があります。この部分を利用してまとめるとよいでしょう。

第二段落では、**文章 A**と**文章 B**で説明された「対話」に関する指摘をふまえて、あなたの意見を書きます。たとえば、無理に人と違うことを言おうとする必要はないが、自分の文脈の中で物事を理解して考えている限り、素直に発言すれば違いは出てくるものだという**文章 A**の筆者の意見に同意できるところがあれば、人と異なった意見を言うことについて必要以上に気にせず、自分なりに思ったことを述べるようにするという方向で自分の意見をまとめることができます。また、「みんながそう思っている」ことであつてもまちがつていることはあり得る、という**文章 B**の筆者の意見に同意できるところがあれば、物事に真剣に向かい合つて自分の意見を持ち、それをつらぬき通すという方向で自分の意見をまとめることができます。

第三段落では、第二段落で述べたことについての理由を書き

ます。基本的に、どちらの文章を選ぶか、また、どのような意見を主張するかということでは優劣はつきません。あなたの考え方を讀んだ人が納得できるように意識して意見を書きましよう。

※四百字未満の場合、採点対象としません。

※この問題では、次のポイントを中心に見ます。

内容等について (48点)

誤り1か所につき、6点の減点となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘をしています。

第一段落について

・**文章 A**と**文章 B**それぞれに書かれた「対話」において意識すべきことについて、それぞれの筆者の考えが書かれているか

・内容が過不足なく書かれているか

・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか

・同内容の不必要な反復がないか

第二段落について

・**文章 A**と**文章 B**のいずれかの筆者の「対話」に関する指摘をふまえて、他者と「対話」をするうえで重要だと思うことについて、自分の意見が書かれているか

・内容が過不足なく書かれているか

・文の論理構成、主語や述語の関係、一文が途中で終わっていないか

・同内容の不必要な反復がないか

第三段落について

・第二段落に書いたことについての理由が書かれているか

- ・ 内容が過不足なく書かれているか
- ・ 文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか

- ・ 同内容の不必要な反復がないか

形式等について(12点)

内容等が0点でない場合、次のような視点で採点します。1つ目の誤りは6点の減点となります。2つ目以降の誤りは1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をしています。

- ・ 誤字や脱字がないか
- ・ 文法的な誤りがないか
- ・ 語句や言葉の使い方に誤りがないか
- ・ 常体、敬体の混在がないか
- ・ 不適切な話し言葉の使用がないか
- ・ 消し残りなどで字が見えづらないか
- ・ 原稿用紙の使い方に誤りがないか
- ・ 指定された段落数で書かれているか